

聖母マリアの祭壇

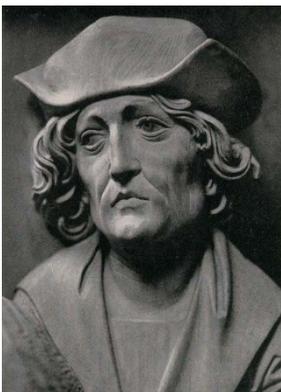
ヘルゴット教会・クレクリンゲン



聖母マリア昇天

12使徒

ヘルゴット教会はクレクリンゲンから2 kmほど離れた場所にある。教会内にはティルマン・リーメンシュナイダーによる最も美しい木彫祭壇「聖母マリアの祭壇」がある。(1505 - 10)この教会は1530年にプロテスタントに改宗した後、裁断は閉鎖され、葬儀用の花輪が掛けられ、存在は忘れ去られたしまった。300年の月日が流れ、1832年に封印がとかれた。



ティルマン・リーメンシュナイダー (Tilman Riemenschneider) は、1460年頃から1531年まで生きたドイツの彫刻家で、彼の作品は全世界に400点あると言われている。特にロマンティック街道沿いのヴェルツブルク、クレクリンゲン、ローテンブルクの教会や博物館に收藏されている。また、ミュンヘンにある国立バイエルン博物館には5体の作品が展示されている。

1483年にリーメンシュナイダーはヴェルツブルクに定住する。2年後アンナ・シュミットと結婚し、3人の子どもに恵まれた。この頃リーメンシュナイダーは次から次へと仕事が舞い込み仕事に熱中し、肖像画、祭壇画、墓標など広範囲に手掛けていた。1494年、結婚後9年で妻アンナを亡くしている。最高傑作の作品はこの頃に作成されている。

3年後、彼は新しい伴侶を見つけるが、二人目の伴侶も9年後に亡くした。彼は40代半ばで8人の子どもと大規模な工房を持っていた。私生活の不幸にもめげず、彼の創造意欲は失われることはなかった。1507年、彼は3度目の結婚し、新居を構えた。この時期と前後して、市の会員議員も務めている。1509年、聖公会の上席評議会に送られ、司教との良好な関係を保ちながら市に貢献した。そして、彼は市長に選出され、4度目のマーガレットと結婚。1524年まで市長を務めた。

1493年、アルザス地方では農民の蜂起がおこったが、鎮圧される。1525年、フランケン地方でも、貧困や支配に対する農民の蜂起がおこる。リーメンシュナイダーは、市参事会員の一人であったが、農民の側に立って、蜂起した農民に対して市門を開いた。しかし、1525年6月、ヴェルツブルグの城壁の外で戦いが起こり、農民軍は前進する司教の軍隊に敗北した。

リーメンシュナイダーは、ドイツ農民戦争の際、市議会議員であったにもかかわらず農民側の立場を支持したかどで、マリエンベルク要塞内に拘束され、裁判にかけられた。投獄後、拷問にかけられ、2か月後釈放されたが、拷問に受けた際に利き腕をへし折られ、彫刻家として活躍ができなくなったという。この頃には創作に対する意欲は失われたと考えられている。

70歳を超え、1531年7月7日、ヴェルツブルクで失意のうちに亡くなった。死後、リーメンシュナイダーの作品は忘れ去られ、再発見されるのは19世紀に入ってからのことだ。代表作とされるクレクリンゲンのヘルゴット教会の祭壇は、宗教改革以来、木造小屋の後ろに隠されており、発見されたのは死後300年後の1832年であった。